

第1回多職種連携カンファレンス概要報告

日時 : 令和元年10月3日(木) 13時30分～15時まで
場所 : 小牧市社会福祉協議会 3階大会議室
担当包括 : 小牧地域包括支援センターふれあい(小牧中部圏域、小牧西部圏域)
参加者 : 38名
医師(整形外科)、薬剤師、リハビリ専門職、保健師、看護師、管理栄養士、
歯科衛生士、ケアマネジャー、サービス事業者、社会福祉士、介護福祉士

【取扱事例】

(ケース1)共倒れのリスクを有する高齢者のみ世帯のケース

→71歳、ご主人と二人暮らしの女性。週に1回短時間型デイサービスを利用。
副腎皮質機能低下症や気管支喘息、骨粗鬆症などの疾患あり。服薬多数。

〔カンファレンスでの意見交換結果〕

- ・複数の薬を服用しているが、薬の重複等を防ぐためにも、かかりつけ薬局を決め、薬を1箇所で管理してもらうことが必要ではないか。
- ・骨折を予防することと転倒予防対策が必須となる。
- ・食事の栄養管理をしっかりと行うことが重要。普段食べているものも確認すると良い。水分をしっかりと摂っているか確認するなど脱水症状にも注意が必要である。
- ・社会資源の紹介として、買い物支援や近くのサロンで始まるこまき山体操の紹介。

(ケース2)本人と家族の思いにズレがあり、支援の方向性について共有が必要なケース

→86歳、長男家族と長女と同居する男性。週1回のデイサービスと福祉用具のレンタル(歩行器等)を利用。複数回の骨折。服薬無し。

〔カンファレンスでの意見交換結果〕

- ・本人は自転車に乗りたいが、家族はケガをされると困るので乗ってもらいたくない。動かないと、本人の活動範囲が狭くなってしまう。家族との意見のズレを調整しながら、継続利用に繋げるため、リハビリ担当者との信頼関係の構築が必要ではないか。
- ・本人が大切にしている「仕事」と「囲碁」をキーワードとした地域との関係づくりを提案することで、本人のやる気を継続させることができるのではないか。
- ・食事内容を確認すると塩分を多く摂っている。食生活の改善が必要である。
- ・趣味の囲碁は、老人福祉センターなどでも実施しているため一度利用を検討する。

次回開催日 令和元年12月12日(木)13時30分～ 小牧市社会福祉協議会 3階大会議室